西塩田県有林



<沿 革>

西塩田県有林は上田市南西部の標高650mから1,000mに位置しています。

創設は明治40年3月29日。明治末期から大正時代にかけて植えられたヒノキやスギが、昭和30年代後半から40年代にかけて収穫され、県庁舎の建設や当時の塩田町(現上田市)への分与金など自治体財政に大きく貢献してきました。

く現況・特色>

樹種別ではアカマツが多く、スギ、ヒノキなどがあり、灌漑用ため池の沢山池の水源林として役割を果たしています。尾根筋のアカマツ林内にはマツタケが発生し、採取権を一般競争入札により販売しています。

また、信州上小森林組合の「作業班の山の造成」を目的に部分林契約 (面積7.63ha)を行っています。



<森林整備の方向>

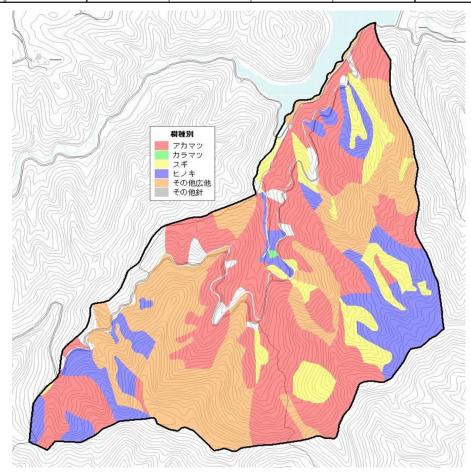
傾斜が比較的急峻であるため、林道富士山線沿線周辺においては、帯状伐採による更新伐を行い、 針広混交林化を検討します。路網から離れ、搬出が難しい林分においては、奥地林施業を行い天然 林化を図ります。

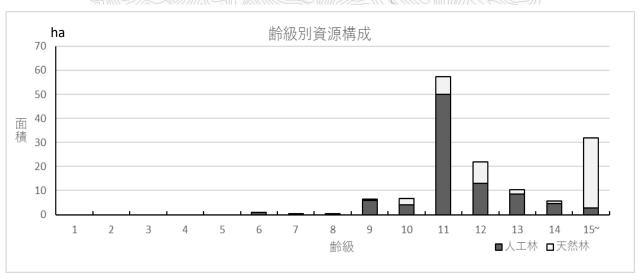
また、沢山池の水源林として水土保全機能に留意し、天然更新が図られるよう上層木の管理を行います。

<樹種別資源構成>

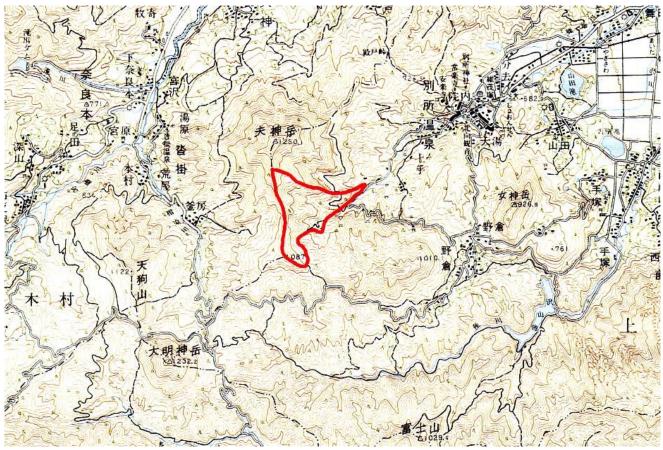
単位:ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地•保残帯
151.81	17.01	55.55	23.52	0.22		10.64	44.87
100%	11%	37%	15%	0%		7%	30%





別所県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(坂城)を使用したものである。

<沿 革>

別所県有林は上田市南西部の標高730mから1,220mに位置し、清少納言の「枕草子」にも記される信州最古の温泉「別所温泉」の上部で、毎年7月に「岳の幟」の神事が行われる夫神岳の中腹にあります。

創設は、明治40年3月29日。

く現況・特色>

適地適木の教えに則り、スギ、 ヒノキ、アカマツ、カラマツが ほぼ同面積ずつバランスよく配 置されています。

創設当時の木は伐採され残っていませんが、60年超える高齢林分もスギ、カラマツを中心に見られるようになってきました。

県有林内には私有林が点在しており、境界等の管理が必要となっています。



スギ林

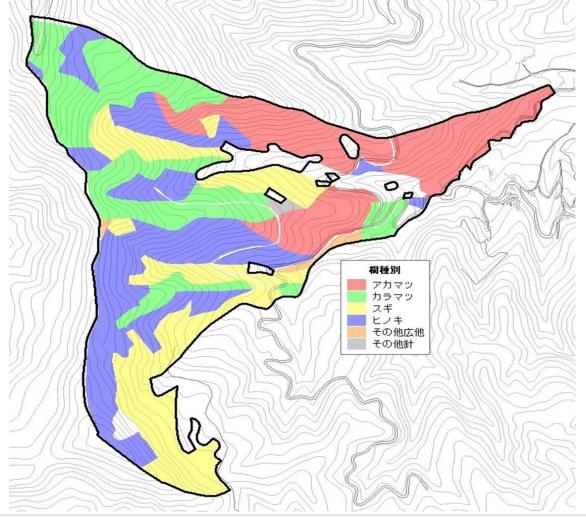
<森林整備の方向>

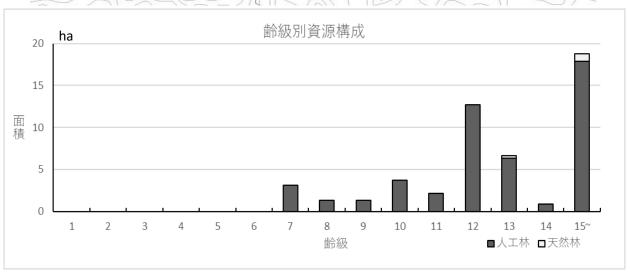
傾斜が比較的急峻なため、長伐期施業にゾーニングをし、大径木生産を目指します。 また、路網から離れ、搬出が難しい林分においては奥地林施業を行い、公益的機能の増進を図ります。

<樹種別資源構成>

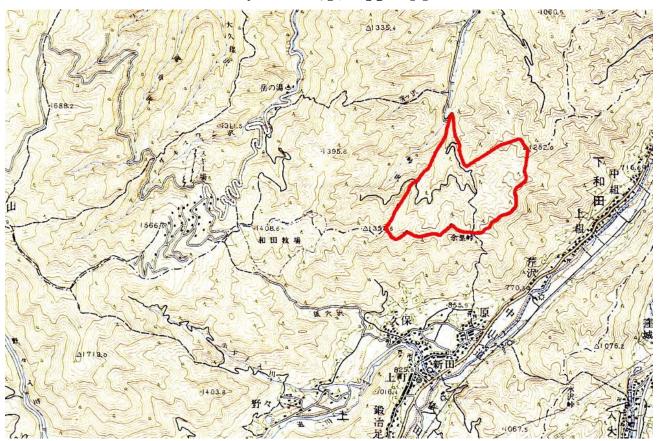
単位:ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地•保残帯
54.31	12.05	12.61	12.03	12,44	0.29	0.1	4.79
100%	22%	23%	22%	23%	1%	0%	9%





武石県有林



この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図(和田)を使用したものである。

<沿 革>

武石県有林は上田市の南(旧武石村)にあり、標高920mから1,300mに位置し、創設は明治40年1月31日。その大半が未立地であった官有林を購入して創設された県有林で、ヒノキやアカマツを中心に植栽されてきました。県庁舎の建設費の捻出に貢献した県有林の一つで、分与金の交付を通じて旧武石村の財政にも貢献してきました。

く現況・特色>

スギ、ヒノキ、アカマツ、 カラマツなどがほどよく植栽 され、間伐等の手入れを必要 とする若い林分も存在します。 また、カラマツの下層にヒ ノキを植栽した林分も存在し ており、今後の施業の課題と なっています。

当県有林のほぼ中心を林道 武石和田線、開宝支線が通過 しており、森林施業の基幹と なっています。

隣接の武石特殊林県行造林の入口に当たる金堀沢には、 金を掘った鉱道の跡があります。



<森林整備の方向>

傾斜が25度以下で、資源が充実している林分では、効率的木材生産型施業を行い、主伐・再造林を積極的に行います。林道沿いで傾斜が25度~35度の林分では、帯状伐採による針広混交林化を図ります。また、林齢が低い針葉樹林分では、保育間伐・搬出間伐を行います。

<樹種別資源構成>

単位:ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地•保残帯
131.96	15.32	46.56	25.84	35.63	0.8	3.13	4.68
100%	12%	35%	20%	27%	1%	2%	4%

